

13
預言者たち
聖徒伝 148

インマヌエル
「共におられる
神を求めよ」

イザヤ書7～9章

悪王の時代のメシア預言

アウトライン

0. イントロダクション

I. インマヌエルなるメシア 7章

II. 襲いかかる略奪 8章

III. メシア的王国 9章

IV. まとめと適用

闇の中で

共におられる主を覚えよう





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

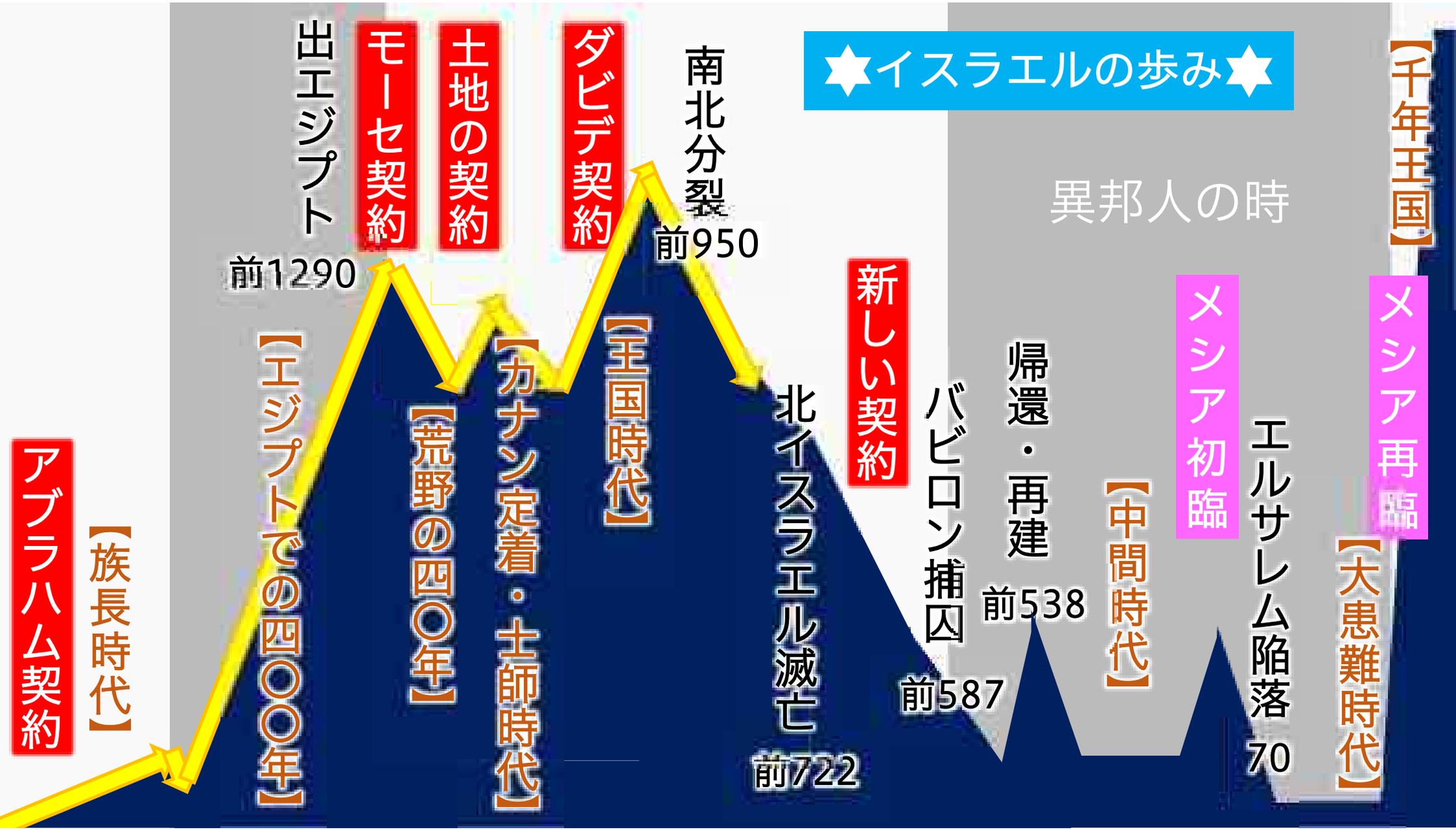
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

【族長時代】

アブラハム契約

イザヤ書とは？

- **著者** …イザヤ = “ヤハウエは救い”
- **出身・活動** …北王国・ユダ、エルサレム
宮廷にも出入りができた。
召命は神殿の幻(6章) → 祭司？
- **時代** …ウジヤ～ヨタム～アハズ～ヒゼキヤ
- **背景** …北王国は滅びを間近にしていた。
南王国も、アハズ王時代に分水嶺を越え、
以降は滅びに向かっていく。



イザヤ書の二大テーマ 召命から(6章)

- ①イスラエルは頑なにされ、裁きを招く。
→アッシリア捕囚、バビロン捕囚、さらなる苦難。
 - ②イスラエルは裁かれるが、切り株が残る。
→切り株から誕生するのが、**メシア**
- 厳しい裁きの記述の中に、重大な**メシア預言**が!!
→7~9章・凶悪な王アハズの時代にも

イスラエルの背きと裁き、メシアの到来を、イザヤ告げ知らせた



預言者たちのつげたこと



裁きの警告もメシアの到来も混然としている

【預言たちの告げたこと】



南北時代



① 直近の
苦難

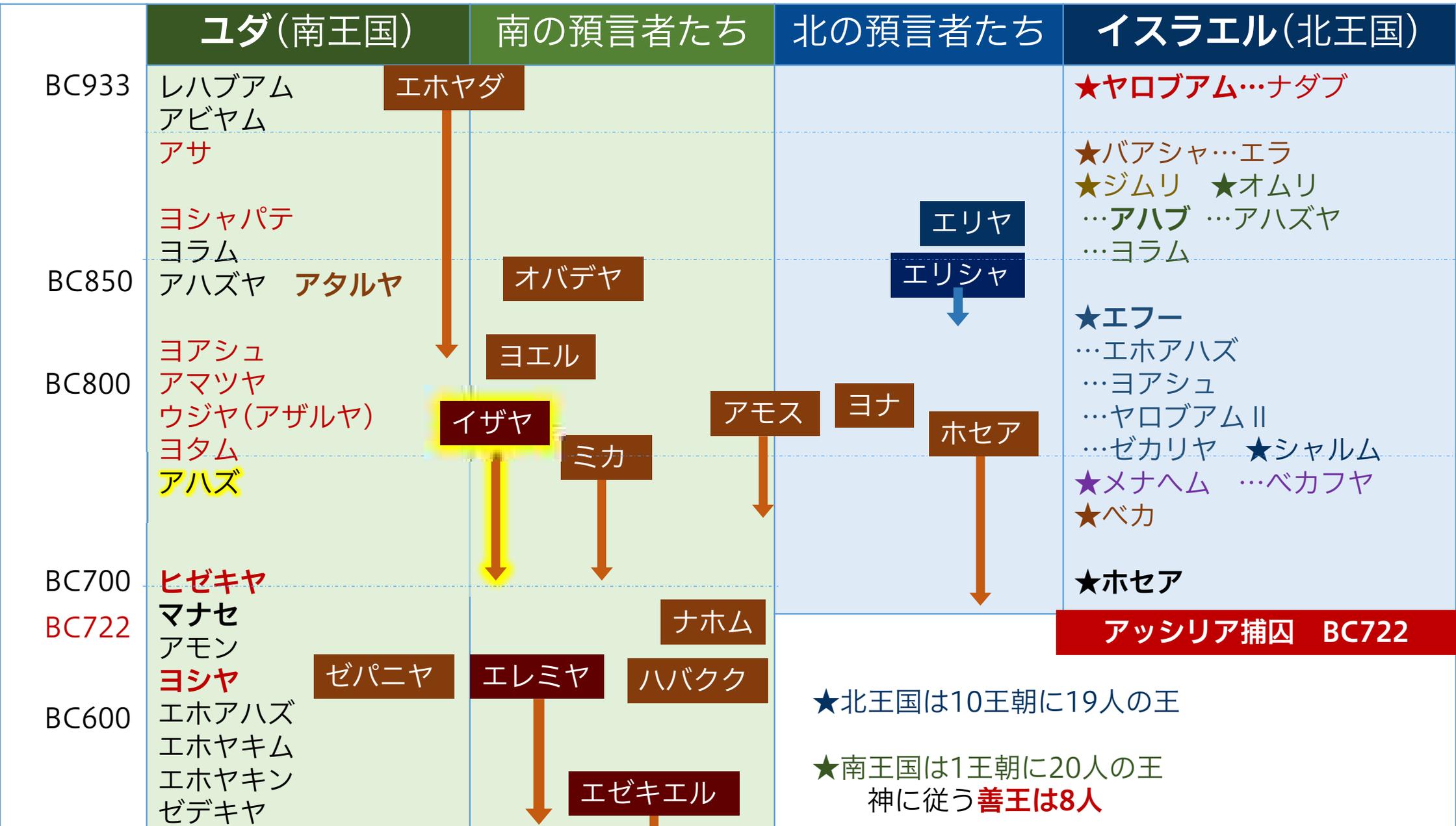
メシア初臨



② 主の日
大患難時代



③ 回復
メシア再臨



★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ

ホセア

アモス

ベカ

ホセア

20年

9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

ヤロブアムⅡ

41年

ゼカリヤ

6ヶ月

シャルル

1ヶ月

メナヘム

10年

ベカフヤ

2年

滅亡の時代

南北時代の最盛期

ヨナ

邪悪な王

29年

アマツヤ ♡

ウジヤ ♡

52年

ヨタム ♡

16年

アハズ ☠

16年

ヒゼキヤ ♡

29年

イザヤ



1. インマヌエルなるメシア

イザヤ書7章

【アラムと北王国からの侵略】 イザヤ書7:1～2

ウジヤの子のヨタムの子、ユダの王アハズの時代、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来た*が、これを攻めきれなかった時のことである。

ダビデの家に「アラムがエフライムと組んだ」という知らせがもたらされた。王の心も民の心も、林の木々が風に揺らぐように揺らいだ。

*列Ⅱ16章(歴Ⅱ28章)



【王への派遣】 イザヤ書7:3～4

そのとき、【主】はイザヤに言われた。「あなたと、あなたの子シエアル・ヤシュブ*は、上の池の水道の端、布さらしの野への大路に出向いて行って*アハズに会い、彼に言え。『気をはかずに持ち、落ち着いていなさい。恐れてはならない。あなたは、これら二つの煙る木切れの燃えさし、アラムのレツィンとレマルヤの子の燃える怒りに、心を弱らせてはならない。』

*“残りの者は帰ってくる”

*王の所在が詳細に告知。➡個人的に会うため？



【あり得ないたくらみ】 イザヤ書7:5~7

アラムは、エフライムすなわちレマルヤの子とともに、あなたに対して悪事を企てて、「われわれはユダに上ってこれを脅かし、これに攻め入ってわがものとし、**タベアルの子***をその王にしよう」と言っているが、【神】である主はこう言われる。それは起こらない。それはあり得ない。

*不明。ここのみ。ダビデの王家の家系を絶ち、傀儡政権を立てようとしたのだろう。

➡神の計画が絶たれることなどありえない!!
ダビデの子孫に、メシアは現れる。



【すべての王のかしら】 イザヤ書7:8~9

アラムのかしらはダマスコ、そのダマスコのかしらがレツィンだから*。——エフライムは六十五年のうちに*、打ちのめされて、一つの民ではなくなる——

エフライムのかしらはサマリア、そのサマリアのかしらがレマルヤの子だから*。あなたがたは、信じなければ堅く立つことはできない。』」

*「では、レツィンとレマルヤのかしらは？」

➔すべての王たちのかしらは、**主**である。



【しるしを求めよ】 イザヤ書7:10~12

【主】はさらにアハズに告げられた。

「あなたの神、【主】に、しるし*を求めよ。
よみの深みにでも、天の高みにでも。」

アハズは言った。「私は求めません。

【主】を試みません。」

*イザヤの預言の正しさを証明する神のしるし。

➔必要ないと主に答えるアハズの傲慢。

■しるしを拒んだアハズの本音は？

➔主の預言に耳を傾ける気もない!!



メシア預言 イザヤ書7:13～14

イザヤは言った。「さあ、聞け、ダビデの家よ。あなたがたは人々を煩わすことで足りず、私の神までも煩わすのか。

それゆえ*、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女*が身ごもっている。そして男の子を産み、その名を**インマヌエル***と呼ぶ。

*メシアの派遣は、イスラエルの不信仰の結果

*“神は私たちと共におられる”

*“乙女”とも。➡この時代の乙女は処女が当然。

マリアから生まれるメシアによって成就される



メシア預言の成就

メシアの誕生 ヨセフへの告知

マタイ福音書1章23節

「見よ、**処女**が身ごもっている。そして男の子を産む。
その名は**インマヌエル**と呼ばれる。」

それは、訳すと「**神が私たちとともにおられる**」という
意味である。

【アラムと北王国の末路】 イザヤ書7:15~16

この子*は、悪を退けて善を選ぶことを知るころ*まで、凝乳と蜂蜜を食べる*。

それは、その子が悪を退けて善を選ぶことを知る前に、あなたが恐怖を抱いている二人の王の土地が見捨てられるからだ。

*シェアル・ヤシュブ(残りの者は帰ってくる)

■イザヤの子が物心つく前*に、アラム、北王国は、アッシリアに滅ぼされる。

*荒野の放浪、捕囚を指す？



【侵略者アッシリア】 イザヤ書7:17~18

【主】は、あなたとあなたの民とあなたの父の家に、エフライムがユダから離れた日以来、まだ臨んだこともない日々をもたらす。それはアッシリアの王だ。」

その日になると、【主】はエジプトの幾筋もの川の果てにいるあの蠅*、アッシリアの地にいるあの蜂*に合図される。

*イスラエルを滅ぼしたアッシリアは、一時期エジプトまで占領する。

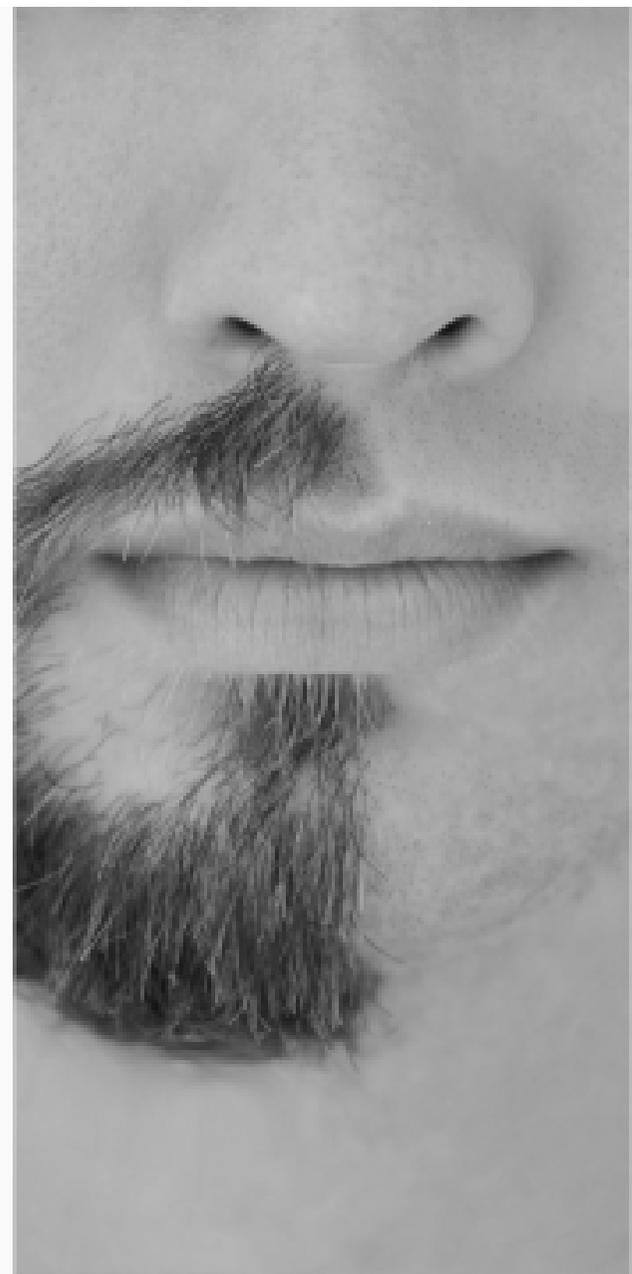


【イスラエルの辱め】 イザヤ書7:19～20

すると彼らはみなやって来て、険しい谷、岩の割れ目、あらゆる茨の茂み、あらゆる水飲み場に巣くう。その日、主は大河の向こうで雇ったかみそり、アッシリアの王を使って頭と足の毛を剃り、ひげまでも剃り落とす*。

*徹底した辱めを現す。

アッシリアに侵略され、恥を受ける北王国。



【残された者たち】 イザヤ書7:21～22

その日になると、一人の人が雌の子牛一頭と羊二匹を生かしておく。

これらが乳を多く出すので、彼は凝乳を食べるようになる。この地に残されたすべての者が凝乳と蜂蜜を食べるようになる。

- 荒野で野宿をする羊飼いたちのように、苦難の中で生き残るイスラエル。



【荒れ果てた約束の地】 イザヤ書7:23～25

その日になると、銀千枚に値する、ぶどう千株のある地所もみな、茨とおどろ*のものとなる。

全土が茨とおどろになるので、人は弓矢を持って、そこに行く*。鋤で耕されたすべての山にも、あなたは茨とおどろを恐れて、行かない。そこは牛が放たれて、羊の踏み歩く場所となる。

*とげのある灌木

*人が住んでいた土地が、すべて野獣の領域に!!





II. 襲いかかる略奪 イザヤ書8章

【二人の証人】 イザヤ書8:1～2

【主】は私に言われた。「一つの大きな板を取り、その上に普通の文字で、『マヘル・シャルル・ハシュ・バズ*のため』と書け。そうすれば、わたしは祭司ウリヤ*とエベレクヤの子ゼカリヤに、わたしの確かな証人として証言させる。」

*分捕りものは速やかに強奪される。

*後にアハズの命を受け、アラムの偶像の祭壇を模して、エルサレムの神殿の庭に設置。



【略奪の預言】 イザヤ書8:3

それから私は女預言者に近づいた。彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、【主】は私に言われた。「その名をマヘル・シャラル・ハシュ・バズと名づけよ。それは、この子が『お父さん。お母さん』と呼ぶことを知る前に、**ダマスコの財宝とサマリアの分捕り物が、アッシリアの王の前に持ち去られて行く*からである。**」

*アラムとイスラエルは、アッシリアに滅ぼされる。



【主を拒み、敵に吞まれる】 イザヤ書8:5

【主】はさらに、続けて私に言われた。「この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水*を拒み、レツィンとレマルヤの子を喜んでいる。それゆえ、見よ。主は、強く水の豊かなあの大河の水*、アッシリアの王とそのすべての栄光を彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、ユダに勢いよく流れ込み、あふれみなぎって首にまで達する。その広げた翼は、インマヌエルよ、あなたの地をおおい尽くす。」

*イエス時代にはシロアムと呼ばれる。都の泉。

*アッシリアのある大河ユーフラテス川



ここでは
イスラエルを指す

【腰に帯をせよ】 イザヤ書8:9～10

諸国の民よ、打ち砕かれよ。遠く離れたすべての国々よ、耳を傾けよ。腰に帯をして*、わななけ。腰に帯をして*、わななけ。

はかりごとをめぐらせ。しかしそれは破られる。事を謀れ。しかしそれは成らない。神が私たちとともにおられるからだ。

*労働や戦いの時、帯をして裾をたくし上げ、動きやすくした。



【主の戒め】 イザヤ書8:11～12

まことに、【主】は強い御手をもって私を捕らえ、この民の道に歩まないよう、私を戒めてこう言われた。

「あなたがたは、この民が謀反と呼ぶこと*を何一つ謀反と呼ぶな。この民が恐れるものを恐れてはならない。おびえてはならない。」

*陰謀(口語)、同盟(新共)

■それが神の裁きの結果であるならば、恐れるべきは、目の前のことではなく、神。

→世の出来事に惑わされるな!!



【聖所かつまずきか】 イザヤ書8:13~14

万軍の【主】、主を聖なる者とせよ。主こそ、あなたがたの恐れ。主こそ、あなたがたのおののき。そうすれば、主が聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にとっては妨げの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には罨となり、落とし穴となる。

- 主を恐れる者は、主の聖所に招き入れられる。
- 主を拒む者は、主につまずき救いを妨げられる。
→信仰か、不信仰か。道は完全に分かれたる。



【律法が罫に】 イザヤ書8:15～16

多くの者が**それ***につまずき、倒れて打ち砕かれ、罫にかかって捕らえられる。

この証しの書*を束ねよ。このおしえ*をわたしの弟子たちのうちで封印せよ。」

*主なる神

■律法*は、主に信頼する者には恵み。

しかし、逆らう者には神の裁きを招くもの。倦厭すべきものになる。



【御顔を隠す神】 イザヤ書8:17~18

私は【主】を待ち望む。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方*を。私はこの方に望みを置く。

見よ。私と、【主】が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の【主】からのイスラエルでのしるし*となり、また不思議*となっている。

*かつてヤコブに現れた神が、御顔を隠している。

→イスラエルの不信仰を示すもの。

*主が使わしたイザヤと子どもたち自身が、神のことばを示す“しるし”とされている。



主の証人である
預言者の責務

【尋ねるべき方】 イザヤ書8:19～20

人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならないのか。

ただ、**みおしえ***と**証し***に尋ねなければならない。
もし、**このことば***にしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。

■ イスラエルは、唯一の主に尋ねるべき。

主の言葉*、**律法***に従うべき。



【背く者の末路】 イザヤ書8:21～22

その人は迫害され、飢えて国を歩き回り、
飢えて怒りに身を委ねる。顔を上に向け、
自分の王と神を呪う。

彼が地を見ると、見よ、苦難と暗闇、苦
悩の闇、暗黒、追放された者。

■主に背いた者の末路は、苦難と破滅。

→神を呪う者は、神に呪われる。

→神を拒む者は、神に拒まれる。





Ⅲ. メシア的王国

イザヤ書9章

メシア預言 | ガリラヤの光 イザヤ書9:1～2

しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルン*の地とナフタリ*の地は辱めを受けたが、後には海沿いの道*、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤ*は栄誉を受ける。

闇の中を歩んでいた民は**大きな光**を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に**光**が輝く。

*真っ先にアッシリアに侵略。強制移住の対象に。

“ガリラヤ”は、旧約聖書では6回のみ。

*ガリラヤ湖畔を通る古代の街道。カペナウムも。



メシアの活動は、ガリラヤで開始され、ガリラヤが主な舞台に!!

イエスはヨハネが捕らえられたと聞いて、**ガリラヤ**に退かれた。そしてナザレを離れ、**ゼブルン**と**ナフタリ**の地方にある、湖のほとりの町カペナウムに来て住まわれた。これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。

「**ゼブルン**の地と**ナフタリ**の地、海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦人の**ガリラヤ**。闇の中に住んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が昇る。」

この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

メシア預言 | イスラエルのメシア イザヤ書9:3~5

あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。

あなた*が、彼が負うくびきと肩の杖、彼*を追い立てる者のむちを、ミディアンの日*になされたように打ち碎かれるからだ。

まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。

*あなた = メシア *国民、彼 = イスラエル

*出エジプト後のイスラエルの最初の戦い



メシア預言 ひとりのみどりご イザヤ書9:6

ひとりのみどりご* が私たちのために生まれる。
ひとりの男の子*が私たちに与えられる。主権
はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、
力ある神、永遠の父、平和の君*」と呼ばれる。

*人として生まれるメシア

*すべて、主なる神のご性質を示すもの

■メシアは、完全な神の性質を宿しつつ、
一人の人として来られる。



メシア預言の成就

ルカ福音書2章11～14節

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つめます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

メシア預言 メシア的王国 イザヤ書9:7

その主権は増し加わり、その平和は限りなく、
ダビデの王座*に就いて、その王国*を治め、さば
きと正義によってこれを堅く立て、これを支える。
今よりとこしえまで。万軍の【主】の熱心*がこ
れを成し遂げる。

*メシアが真実の永遠の王として王国を治める。

*“キナー” …熱意、熱情。

■イスラエルの不義に怒り、嫉むほどに愛される
主の熱情が、メシアの救いを成し遂げられる。



【イスラエルの高慢】 イザヤ書9:8～10

主はヤコブに一つのことばを送られる。それはイスラエルに下る。

この民、エフライムとサマリアに住む者たちはみなそれを知り、高ぶり、思い上がって言う。

「れんがが落ちたから、切り石で建て直そう。いちじく桑の木が切り倒されたから、杉の木でこれに代えよう。」

■ 何度も主の懲らしめを受けながらも、悔い改めなく、今に至っているイスラエル。



【周辺国の侵略】 イザヤ書9:11~12

そこで【主】はレツィンに敵対する者たちをのし上がらせ、その敵たちをあおりたてる。

東からはアラムが、西からはペリシテ人が*、その口いっぱいにはイスラエルを食らう。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

*主への不義を重ねたイスラエルは、アラムやペリシテなど、周辺諸国に侵略され領土を削り取られていった。



【主の裁き】 イザヤ書9:13～14

しかし、この民は自分を打った方に帰らず、万軍の【主】を求めない。

そこで【主】はイスラエルから、かしらも尾も*、なつめ椰子の葉も葦も一日のうちに断ち切られる。

*次章に解説。

■度重なる警告に耳を貸さず、何度も懲らしめを受けながらも主に立ち返らなかった民に、主の裁きが下されることは、確定済み。



【迷わしと惑わし】 イザヤ書9:15～16

そのかしらとは長老や身分の高い者。その尾とは偽りを教える預言者*。

この民を導く者は迷わす者となり、彼らに導かれる者は惑わされる者となる。

*預言者は本来、民に仕える者と分かる。

■滅びに向かって混迷を深めるイスラエル。

■メシアが到来した時のイスラエルが最悪。

指導者が偽教師、偽預言者となっており、民はひどく惑わされていた。



【全イスラエルへの裁き】 イザヤ書9:17

それゆえ、主はその若い男たちを喜ばず、そのみなしごも、やもめも、あわれまない。皆が神を敬わず、悪を行い、すべての口が愚かなことを語っているからだ。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

- 迷わす指導者も、惑わされた民も共に裁かれる。どんなに小さな存在でも、己の罪は免れない。不義の裁きから、悔い改めなく逃れる道はない。



【徹底した神の裁き】 イザヤ書9:18~19

まことに、悪は火のように燃えさかり、茨とおどろをなめ尽くし、林の茂みに燃えついて、煙となって巻き上がる。

万軍の【主】の激しい怒りによって地は焼かれ、民は火の餌食のようになり、だれも互いにいたわり合わない。



【同胞の争いの果てに】 イザヤ書9:20~21

右にかぶりついても、なお飢え、左に食らいついても、満たされず、それぞれ自分の腕の肉を食らう。

マナセはエフライムを、エフライムはマナセを*、そして彼らはともにユダを敵とする*。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている*。

*北王国末期、内乱も激化。短命な王が続く。

*北王国が南王国を侵略。列王記II 16:5~6

*内乱も同胞同士の争いも、主の裁きの結果。

アッシリア捕囚、バビロン捕囚。さらには、

終末の大患難時代の裁きが神の民を待っている。





IV. まとめと適用

闇の中で共におられる主を覚えよう

預言書におけるメシア預言の位置づけの特異さ

- 直近の警告、世の終わりの裁き、そして、**メシアの初臨と再臨**。これらの預言は、時系列を無視してランダムに告げられている。
- イザヤ書7～9章における**メシア預言**も、明らかに特異だ。文脈を全く無視して差し込まれているが、だからこそ際立つ。
- 重苦しい曲の中で、**全く違う旋律**が差し挟まれているようだ。深い闇の中にあるほどに、際立つのが光。
- 預言の背景にある、イスラエルの陥った罪と不義の深刻さ。しかし、背景を理解するほどに、**メシアの希望**が身に迫る。

なぜ、最悪の時代に、メシア預言が？

■ 重大なメシア預言はなぜ、最悪の王の時代に告げられるのか？

- ① イスラエルへの裁きを決定してしまった、最も暗闇の深い時代に、メシアの希望が告げられた。
- ② 数百年続いた苦難の末のローマ帝国の過酷な支配、ヘロデ王の凶器。暗闇が深まった、そのただ中に、メシアは誕生された。
- ③ 再臨のメシアは、世の終わりの大患難時代。イスラエルへの最終的裁きの後に、彼らの民族的回心を経て、王の王として地に降り立つ。

暗闇の世界に現れる真実の希望が、メシアにほかならない

最悪の時代に与えられた希望

■ カナンやアラム、最悪の偶像礼拝に陥った凶悪な王アハズ。
ユダが滅びへの分水嶺を越えたこの時代に、重大なメシア預言が。

■ アッシリア捕囚、バビロン捕囚。さらに続く苦難の時代。
幾多の裁きを経て、離散を繰り返して行く神の民に、
インマヌエル(共におられる神)・メシアの誕生が告げられた。

■ 民を嫉むほどに愛される神は、その熱情をもって計画を完遂される。
メシアは来られ、十字架の贖いと復活、福音の御業を成し遂げた。
王の王としてメシアは再臨し、永遠の神の国を実現される。

主が約束されたメシアに、イスラエルと全世界の希望はある

★ 共におられる・主の約束を握りしめよう ★

■ 世の終わりがますます近づく、産みの苦しみの時代が今だ。疑いようなく、世界を覆う暗闇は、その深さを増していく。

■ 最悪の時代だからこそ、最善の助け手が私たちには与えられている。福音を信じた者に聖霊が住まわれ、主イエスはいつも共におられる。

■ 福音を告げ、聖書を解き明かそう。世の拒絶が強まる一方でも。それでも主が、救われるべき一つの魂と出会わせてくださるから。

**希望は、私たちのメシア、主イエスにある!!
福音を告げる者として、信頼して遣わされよう!!**

メシアの誕生 ヨセフへの告知

マタイ福音書1章23節

「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる。」

それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という
意味である。

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

やくそく こ すく みわざ な と
約束されたメシアは来られ、救いの御業を成し遂げられました。

しゅ ふたた こ えいえん おうこく まね
主イエスは再び来られ、永遠の王国に私を招いてくださいます。

ふか よ やみ しゅ えいこう かが
深まる世の闇の中で、主の栄光は、ますます輝きます。

どうか、小さくとも世を照らす主の光として、私を遣わしてください。

しゅ な いの つか
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」